

# 第5章 学校経営と学校事務職員

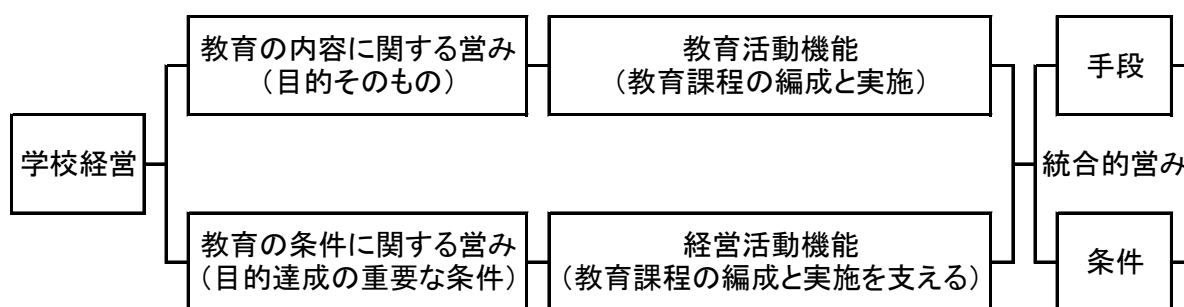
## 第1節 学校経営の二つの区分と学校事務職員職

### 1 学校経営の二つの区分

学校は、子どもと子どもの教育を担う教職員とその教育のための物的施設からなる組織体である。学校がその目的を達成するためには、学校が組織体として、調和がとれたなかで効果的に運営され、教育としての活動が円滑に行なわれる必要がある。学校における教育活動は、学校としての目的を達成するために教育目標を設定し、教育目標の具現化を目指して編成され実施される。

学校経営は、これらの教育活動を組織し展開するために、その手段と条件を合理的に選択し推進する統合的な営みである。学校経営を図1のように二つに区分し、それぞれの機能について整理する。また、この二つの区分から学校事務職員の職務を展望していく。

図1 「学校経営の二つの区分と統合」



### 2 二つの区分の機能

学校経営の二つの区分は、教育を内的事項（教育内容・方法等）と外的事項（物的・財的条件）に区分し切り離すものではない。また、学校の仕事を直接業務と間接業務に分けるものでもない。これは、学校経営が主として教育理論としての学校教育論として展開されるのではなく、経営管理論的な発想の導入から思考したものである。したがって、両者はもともとひとつであり、学校経営活動のいかなる時でも複雑に絡み合い、統合的に営まれ、目的に向かって相乗的に作用する機能をもっている。

### 3 経営活動機能と学校事務職員

事務は、目的達成の手段として性格付けられている。このことは、学校事務においても例外ではなく、学校経営の目的を達成するための重要な手段として位置づけられる。したがって、学校事務は、教育の条件に関する営み＝経営活動機能として作用している。その作用の中でデータと情報の処理をもとに、教育課程の編成と実施を支えるための条件を技術的な過程を形成する職が学校事務職員である。つまり、学校経営において重要な役割を期待されている職といえる。

## 第2節 学校経営における分業と協業

これまで、教育目標の具現化は、「教育の内容に関する営み」のみが関与し、「教育の条件に関する営み」は直接には関与しないかのようにいわれることもあり、また、「教育の内容に関する営み」は教員が担当し、「教育の条件に関する営み」は学校事務職員が担当するというような見方もある。しかし、現実の学校においては、必ずしも妥当でない。例えば、学習環境づくりを見ても、

「学習するための環境をどのように考えるか」

「環境づくりから何を学ばせるか」

「学習環境の美化をどのように図るか」

「環境基準をどのように遵守するのか」

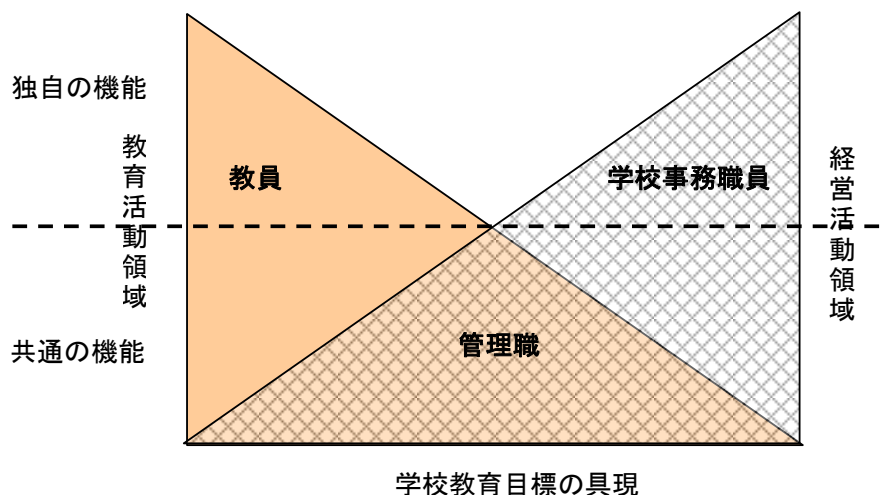
「安全の確保をどのように進めるか」

「財政的負担をどのように確保するか」

といったように、その中には、目的の達成に向けたデータと情報の処理の技術的な過程があり、「指導と事務」が複雑に絡み合い、「手段と条件」統合的に営まれ、相乗的に作用することによって、目標の具現化が図られている。したがって、「指導と事務」を厳しく区別するのは妥当でないことが理解される。つまり、「指導と事務」または「教員と事務職員」の分業と協業によって「教育目標の具現化」を図っているのである。

学校経営における分業と協業の統合的な営みを図2のように構成し、学校事務職員の職務の領域を展開していく。

図2領域の構造



教育目標の具現化は教員の教育活動によって達成されるという限定的な見方が強かったが、今後は、学校事務職員の職務もまた教育の具現に深く関わるという開かれたとらえ方や動的な活動を加えることが重要である。このことが、学校事務職員は、「学校におかれ・職務と責任に特殊性があり・教育に関する職で・事務をする」ことになっていることを説明する手がかりとなる。